

「さあ、みんな、考えよう」

部落問題ってどんな問題？人権学習はなぜするの？

～かつて書かれた伊賀市内のある中学生の思いから考える～

私の自慢の近所のおっちゃんの話をお聞かせください。おっちゃんって言った失礼かな？おっちゃんは背が高く、元気がよくて、野球が好きで、近所の小さい子どものめんどうをよく見てくれて、やさしく、力持ちで……。見た目はちょっと怖そうだけど、すごく思いやりがあって、あつい人なんです。

私にとっては、聴いただけの話で記憶にもないんですが、1995年の1月に阪神淡路大震災がありました。ニュースで被害の状況やけが人そして亡くなった方がずっと流されていたようです。映像で映し出されていたのは、倒れてしまった高速道路や、大都市である神戸が炎と煙に包まれている状況、途中の階が完全に押しつぶされたマンションなどだったそうです。電話もつながらない。そんな信じられない光景があったそうです。テレビを見た誰もが「どうなっていくんだろうか？」「大丈夫かな」と思ったのでしょう。そんななか、私の住んでいるところでは、そのおっちゃんや近所の青年たちが集まり、阪神淡路大震災のことを、決して他人事には思えず、何かしないではおれない気持ちでいっぱいでした。水道や電気などのライフラインが閉ざされている状況も知る中で自分たちには何ができるかを考えた結果、自分たちにできることは自分たちの自慢の水だということに気がきました。山間で川の上流であり、源流でもある遠く通った自分たちのふるさとの水。おっちゃんたちはこの水を阪神の地に運ぼうと思ったのでした。思ったら、則実行。自分たちの自慢の水をタンクにくみトラックに積んで、阪神の地へ運んだのでした。水が不足していた震災の地に到着して、自分たちの思いを届けたとき、「この水は飲料水としてだけではもったいない。今、医療用の水も不足している。だから、ありがたく医療用として使わせてもらおう」という言葉をもらったそうです。

みなさんは、この話をどのように受け止めてくれたでしょうか？誰もが「たいへんなことが起こった」とは思っても、みんながそれに対して行動を起こせるかということ、そうはなかなかいきません。でも、おっちゃんや近所の青年は、そのままではいられず、則、行動を起こしたのでした。私の自慢のおっちゃんです。

しかし、世間では、このおっちゃんを「部落」と言って、差別する人がいるらしい。住んでいるところで差別する人がいるらしい。住んでいるところとかで、みんなをひとまとめにして差別する人がいるらしい。私は言いたい。そんなふうにひとまとめにして見ないで、一人ひとりを見てほしい。中には、怖いひとなどもいるかもしれないけど、それはどこでも同じこと。一人ひとり見たら、おっちゃんのようにあつい人もいることを知ってほしい。そのひとを見て評価してほしい。私もおっちゃんといっしょに、その「部落」と呼ばれるところに住んでいる。私も私自身を見てほしいです。そしてこんな不合理な差別、みんなでなくしたいです。

私は部落出身です。あつてはいけないことだけど、私は将来差別にあうかもしれません。私は絶対に差別されたくありません。だから、部落差別のことをもっと勉強して、もっと知って、

もっと力をつけたいです。そしてなかまを増やしたいです。だから今、いろいろ勉強したり、集いなどに参加して語り合ったりしています。

勉強している中で、私は気がつきました。私は部落問題に関しては、あってはいけないことだけど、差別される立場なんですね。でも、他の問題については、私は逆に差別をしてしまう立場になってしまうかもしれない。障がい者のことや外国人のことなどを勉強せずにいたら、私は差別する側にまわってしまうかもしれない。油断していて、何も学ばず、何も考えずにいたら、知らず知らずの間に差別してしまうかもしれない。私は部落問題のことで差別されたくない。それと同じくらい差別もしたくないんです。だから私は、部落差別の問題だけでなく、障がい者の問題も、外国人の問題も、その他いろいろな問題を一生懸命考え、取り組みたいんです。私も自慢のおっちゃんのような生き方がしたいんです。

私は部落差別のことを学校や集いなどで話をするときに、私がここにいるのにいないこと(部落出身者がその場にいないこと)にして話が進んでいくようなことはいやなんです。同時に、他の問題でも、「当事者はここにいないだろう」的な雰囲気、まるで他人事のような形で進めていくのはいやなんです。自分に指をむけて自分のこととして、自分の生き方をみんなと一緒に考えたいんです。

この文章を読んで、みなさんは、部落問題ってどんな問題だと思いましたか？また、誰の問題だと思いましたか？人権学習って、なぜすると思いましたか？

かつて伊賀市内で行われた部落問題についてのある地区懇談会で、「なぜするのか」「どうして必要なのか」を話し合っているときに「ここには部落がないから」という思いが出されたことがありました。「ここには部落がない」というのは「ここには部落差別を受ける人がいないからしなくてもよい」ということなんでしょうか。人権学習や部落問題学習をしている中学生は、この作文を書いた生徒のように「部落問題は住んでいるところや親が住んでいたなどのことで差別をする人がいる問題」と考えています。こう考えると、部落があるとかないとかいう話ではなく、人権意識調査にあるように、この柘植にも部落差別の心を持った人がいるという問題になります。このようななか、柘植中の中学生は「自分事として人権学習に取り組む」ことをスタンダードとして、日常のなかで考え、自分の生き方へと高めています。中学生から学ぶこと、教えられることはたくさんあります。みなさんも、近所の中学生や小学生と人権問題について、話をしてみませんか？

文責・橋本浩信

10月、11月の講演会や研修会の案内

- 10月13日,14日(土・日) 第52回三重県人権・同和教育研究大会 (伊賀市・名張市)
- 10月25日(木) 青山文化センター人権・解放講座 (19:30～21:00) 青山文化センター
「性別って2つだけ？～人の教だけ性別がある～」(山口 颯 一さん) [一般社団法人 ELLY]
- 10月26日(金) 部落解放・人権大学講座 (19:30～21:00) ゆめぼりすセンター
「もう1度、考えてみませんか？インターネットのこと」(中村尚生さん) [反差別・人権研究所みえ]
- 10月30日(火) 「人権・同和問題地区別懇談会」柘植地域会議 (20:00 柘植地域市民センター)
- 11月9日(金) いがまち解放講座 (19:30～21:00) いがまち人権センター
「外国人定住者に起こる生活困窮への支援・対策と今後の課題」(青木幸恵さん) [多文化共生ネットワークエスペランサ]
- 11月13日(火) 青山文化センター人権・解放講座 (19:30～21:00) 青山文化センター
「外国人の人権って私たちの人権」(青木幸恵さん) [多文化共生ネットワークエスペランサ]
- 11月20日(火) 部落解放・人権大学講座 (19:30～21:00) ゆめぼりすセンター
「差別意識のカラクリ」(奥田均さん) [近畿大学人権問題研究所]
- 11月25日(日) おおやまだ人権フェスティバル (13:30～) 大山田農村環境改善センター
ひとり芝居「君をいじめから守る」(福永宅司さん) [子どもの学び館]